

寅

校長 菊池 幸博

2022年を迎えました、年頭にあたり一言。

釜利谷小学校の子どもたち、保護者・地域の皆様、本校職員にとって、よい年となりますことを心からお祈り申し上げます。

今年は寅年です。生まれも育ちも横浜ではありますが、物心ついたころから実は某トラマークの球団のファンなので、今年こそと願っているところではあります。

寅年といえばもう一つ、私の頭の中に浮かぶのは、「寅さん」です。今の子どもたちや若い保護者の方はピンとこないとは思いますが、山田洋次監督の「男はつらいよ」シリーズに出演されていた、故渥美 清さんが演じていた主役、「帝釈天で産湯を使い、姓は車、名は寅次郎」で有名なフーテンの寅さんのことです。

わたしの子どもころは、今のようにゲームセンターなどはなく、もちろんDランドもシーパラもありませんでした。戸塚にドリームランドはありましたが、そうそう連れて行ってもらえることはなく、遊園地は遠い存在でしたが、お正月の楽しみの一つに「映画」がありました。その映画が「男はつらいよ」シリーズだったのです。

おいちゃんやおばちゃん、さくらさん、博さん、和尚様、タコ社長…ととても個性的な共演者にあって、ひとときわ輝いていたのは「寅さん」です。進んで困っている人を助ける、打算ではなく良し悪しの根本を見つめる、人間味あふれ、自分の主張を通す。でも、どこか抜けていて憎めない。そこには、いま私たちが目指している人づくりの要素が含まれています。特に「思いやりの心は宝物」と以前校長だよりも伝えましたが、時に厳しく時に優しいその思いやりの心は、人として大切にしていきたいと考えています。

流れるような名台詞にも聞きほれたものです。「それをいっちゃぁ～おしまいだよ」「結構毛だらけ猫はいだらけ…」「たいしたもんだよカエルの…見上げたもんだよ…」これらの名台詞、寅さんの口から身振り手振りで繰り出されると、妙に説得力が生まれます。実はここには学びの要素が含まれています。自ら考え、試行錯誤し、そして効果的に発信する。学びの資質能力につながるものがあるのです。

寅さんが甥っ子の「人間て何のために生きてるの?」という質問に答える場面があります。寅さんの答えはこうです。「ああ 生まれてきてよかったなって感じることもあるじゃない、そのために生きてるんじゃないの」決してたいそうな美しいものや、素晴らしいことではなくても、身近な生活の中で感じられるちょっとした喜び、そういう喜びをしっかりと感じ取れる気持ちを、子どもたちに、日々の積み重ねの中で育んでいけたらと思っています。



本年もどうぞよろしく願いいたします。